



迅速な情報共有を目的とした資料であり、内容や見解は情勢の変化によって変わる可能性があります。

最新の情報をご確認ください。

麻しんの発生に関するリスクアセスメント (2025 年第一版)

(2025 年 4 月 1 日時点)

2025 年 4 月 15 日

国立健康危機管理研究機構

国立感染症研究所 応用疫学研究センター

実地疫学専門家養成コース (FETP)

感染症疫学研究分野

感染症危機管理研究センター

■ 背景

麻しんは、発熱と発疹を特徴とする全身性のウイルス感染疾患であり、感染力が非常に強い。麻しんに対して免疫が不十分な者が感染すると、通常約 10～12 日間の潜伏期間を経て発症し、合併症として肺炎やまれに脳炎を発症し、死亡することがある。さらに、麻しんに罹患し回復した後、数年の間を経て発症する亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) などの重篤な合併症もある。有効な予防法は、ワクチンの接種により麻しんウイルスに対する免疫を獲得することであり、2 回のワクチンの接種により、発症のリスクを最小限に抑えることが期待できる¹⁾。

世界保健機関 (WHO) は、「麻しん排除」を「適切なサーベイランスシステムが存在する国、または地域において、12 か月間以上、伝播を継続した麻しんウイルス (国内由来、国外由来を問わず) が存在しない状態」と定義している²⁾。日本は、2015 年に WHO による麻しん排除達成の認定を受け、引き続き麻しんの排除の状態を維持することを目標に定め、「麻しんに関する特定感染症予防指針 (以下「予防指針」という。)」³⁾ に基づき発生及びまん延の防止に努めている。

排除達成後も海外からの旅行者を発端とした集団発生⁴⁾や、医療機関における集団発生⁵⁾、麻しん風しん混合ワクチン及び麻しんワクチン (以下「麻しん含有ワクチン」という。) 接種率が低い集団における集団発生⁶⁾等の複数の集団発生があり、2019 年の年間届出数は、排除達成後最多の 744 例となった。2020 年から 2022 年は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的な流行 (パンデミック) に伴う国内外における人の往来制限の影響等から、年間届出数は 6～10 例と大きく減少したが、COVID-19 対策が緩和された 2023 年以降は⁷⁾、

2023 年は 28 例、2024 年は 45 例 (2025 年 1 月 7 日時点暫定値) と増加した。2025 年は 3 月 19 日時点ですでに 32 例となり、2024 年の同時期 (第 11 週)⁸⁾ の 1.6 倍で、2024 年の年間届出数に迫っている (図 1)。

近年の麻しんの国内発生は訪日外国人⁹⁾ や海外渡航者¹⁰⁾ による輸入症例が多い¹¹⁾。2024 年の訪日外客数は COVID-19 流行前を上回っており、海外渡航者は COVID-19 対策緩和以降増加している¹²⁾。また、今後は 2025 年 4 月 13 日から開催される 2025 年日本国際博覧会 (大阪・関西万博) を契機とする更なる訪日外客数の増加とともに、国内外から同時期に多くの者が会場内に集まることが見込まれる¹³⁾。2022 年以降、国外において麻しん報告数は年々増加していることから¹⁴⁾、今後、国内において輸入症例の増加や、海外渡航歴や接触歴のない国内在住者の麻しんの発生リスクが高まることが予想される。

このような状況から、2025 年 (3 月 19 日時点) の感染症発生動向調査や近年の感染症流行予測調査、病原微生物検出情報等の結果、また最近の海外の状況を踏まえて国内における麻しんの発生や感染拡大の可能性についてリスクアセスメントを更新した。

■ 2025 年の国内の発生状況 (2025 年 3 月 19 日時点)

2025 年第 1 週から第 11 週 (3 月 10 日～3 月 16 日) までに感染症発生動向調査に届け出られた麻しん症例は 32 例で、第 8 週以降に届出数が増加し、第 11 週では 12 例の届出が確認された¹⁵⁾。関東・関西地域を中心とした全国各地 (宮城県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、岡山県、山口県) から届出があった。

推定感染地域を国外とする届出は 56% (18 例) であり、最も多かった地域はベトナム (13 例)、次いでタイ (3 例)、イタリア/フランス (1 例)、パキスタン (1 例) であった。また、感染地域が国内の届出は 34% (11 例)、国内または国外か不明の届出は 9% (3 例) であり、国内での 2 次感染例^{16) 17)} や家族内感染¹⁸⁾ が報告された。症例や接触者を所管する保健所が異なり、複数の自治体に関わる広域での対応が必要な事例も発生した。

2025 年の届出症例のうち、20 歳代は 44% (14 例) で最も多く、次いで 30 歳代が 25% (8 例) であった。また、麻しん含有ワクチンの定期接種対象年齢に満たない 0 歳は 13% (4 例) であった (図 2)。麻しん含有ワクチン接種歴*は、なしが 34% (11 例)、1 回接種が 6% (2 例)、2 回接種が 22% (7 例)、不明が 38% (12 例) であった。2 回接種を完了していない者に不明を含めた割合は全体の 78% (25 例) を占め、特に 30 歳代において 2 回接種を完了していない者の割合が多かった。

病型は、麻しんが 88% (28 例)、修飾麻しんが 12% (4 例) であった。全例が検査診断例であった。麻しんの確定診断までに複数の医療機関を受診し、時間を要した事例が報告された^{19) 20) 21)}。

麻しんウイルスの遺伝子型が判明し病原体個票により報告されている 21 例のうち、遺伝子型では B3 が最も多く (16 例)、次いで D8 (4 例) であった²²⁾。現在、世界では遺伝子型 D8 と B3 の 2 種類が検出されており、特に B3 は東南アジアや中東、アフリカ地域で多く確

認されている¹⁴⁾。

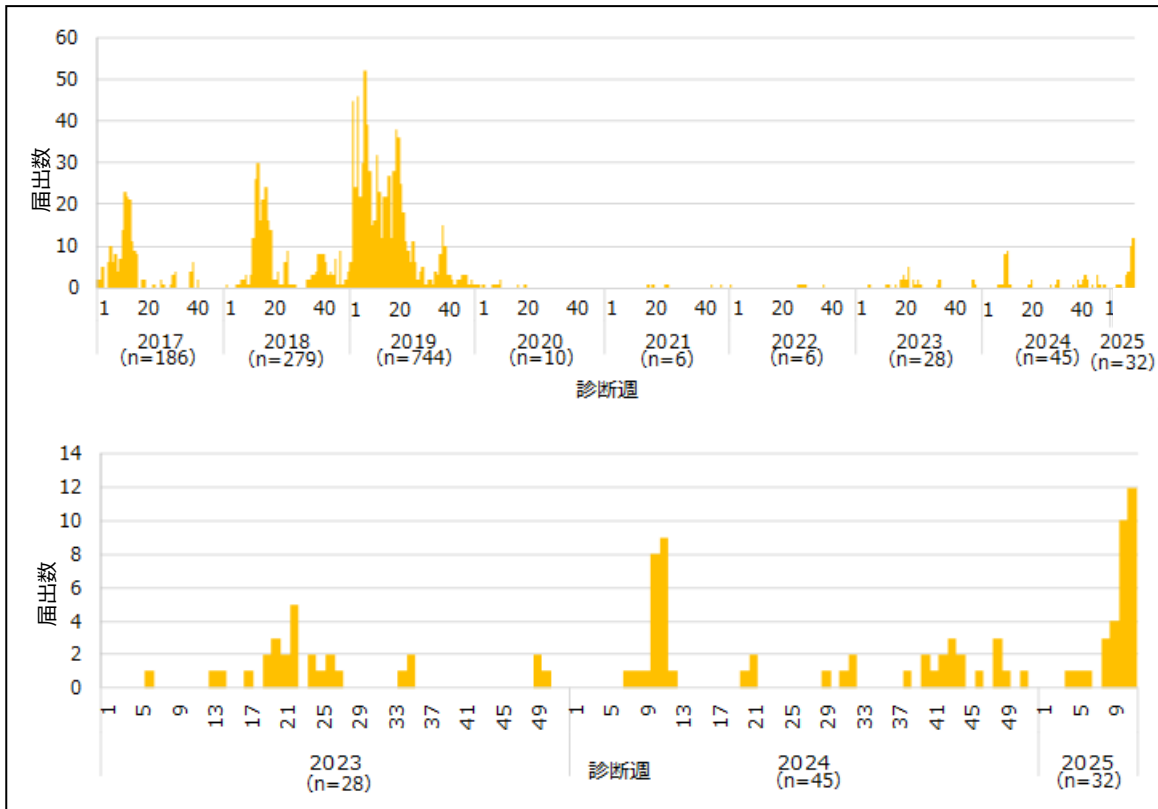


図 1. 上段：麻しん届出数（2017 年第 1 週～2025 年第 11 週、2025 年 3 月 19 日時点）
下段：麻しん届出数（2023 年第 1 週～2025 年第 11 週、2025 年 3 月 19 日時点）

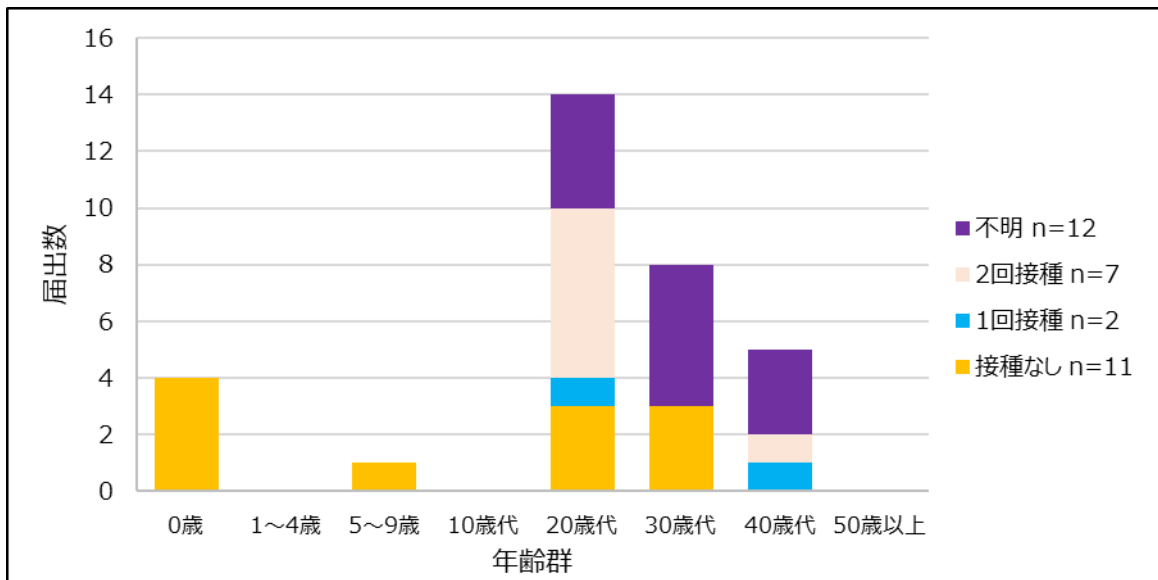


図 2. 年齢群・麻しん含有ワクチン接種歴別*の麻しん届出数（n=32、2025 年第 1 週～第 11 週、2025 年 3 月 19 日時点）*感染症発生動向調査システム登録情報に基づく

■ 国内の麻疹ワクチン接種率及び麻疹抗体保有状況

予防指針においては、麻疹排除状態を維持するために、2 回の麻疹含有ワクチンの定期接種の接種率をそれぞれ 95%以上に達成・維持することを目標としている。2023 年度の全国の麻疹含有ワクチン接種率は第 1 期 94.9%、第 2 期 92.0%であり²³⁾、ともに接種率は 95%を下回り、前年度から低下した（前年度：第 1 期 95.4%、第 2 期 92.4%）。第 2 期については、5 道県（北海道、山梨県、高知県、鹿児島県、沖縄県）で 90%を下回ったことは注意すべき点である。

2023 年度の年齢/年齢群別麻疹抗体保有状況を図 3 に示す。酵素免疫測定法（Enzyme Immunoassay; EIA）による麻疹抗体陽性と判断される EIA 抗体価 4.0 以上の割合は、全体で 86.0%であった。年齢別にみると、40～44 歳群までは全ての年齢で 95%を下回り、45～49 歳群以上では 95%以上の抗体保有率であった。接種歴・罹患歴不明の際に麻疹抗体検査で追加接種不要の指標²⁴⁾とされる EIA 抗体価 16.0 以上の抗体保有割合は 7 歳から 40～44 歳群では 50%を下回っていた²⁵⁾。

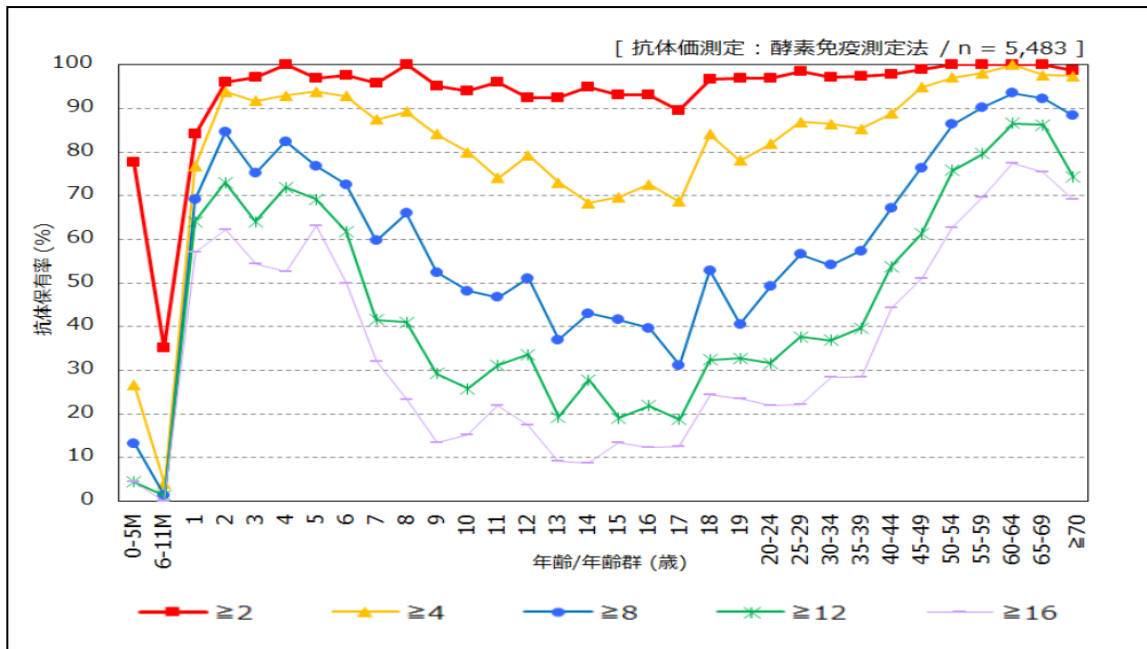


図 3. 年齢/年齢群別の麻疹抗体保有状況、2023 年
 国立感染症研究所、感染症流行予測調査グラフより引用
 (<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/nesvdp/graph/2023/measles/yosoku/serum/index.html>)

■ 世界の麻疹発生状況

2020 年から 2021 年はそれぞれ 93,840 例、59,619 例と 2019 年の 541,401 例と比較し報告数は大きく減少したが、2022 年以降は、2023 年は 321,887 例、2024 年は 359,521 例と年々増加している（図 4）。2025 年（3 月 30 日時点）は 16,147 例であり、近年の主な報告地域は、東地中海地域（EMR）、アフリカ地域（AFR）、ヨーロッパ地域（EUR）の 3 地域で、

全体の 82%を占めている¹⁴⁾。なお、直近 6 か月間 (2024 年 8 月から 2025 年 1 月) における麻疹症例報告数の上位 10 か国はイエメン、パキスタン、インド、タイ、エチオピア、ルーマニア、アフガニスタン、インドネシア、キルギスタン、ベトナムであり、訪日外客数が多い東南アジアの国々においても麻疹症例が報告されている。

ベトナムでは、2022 年以降増加傾向であり、2024 年は 2,105 例の麻疹症例が報告されており、2023 年の 98 例を大きく上回った²⁶⁾。2025 年 1 月には 118 例が報告され、さらに現在も報告は増加して継続しており、保健省は「2025 年麻疹予防接種キャンペーン実施計画」を発表している²⁷⁾。

米国では、2000 年に麻疹排除が達成されているが、2025 年 1 月 1 日から 3 月 20 日までに 2019 年以来最も多い 378 例 (うち 2 例死亡) が 17 州から報告された²⁸⁾。これらのうち 341 例 (90%) は 3 つの異なるアウトブレイクに関連していた。特にテキサス州は最も多く 3 月 14 日までに 259 例 (うち 34 例が入院、1 例死亡) が報告され、257 例 (99%) が麻疹含有ワクチン未接種または接種状況が不明であった。死亡した 1 例は麻疹含有ワクチン未接種の学齢期の小児であり、米国での 10 年ぶりの死亡例の報告であった。

2023 年の世界全体の麻疹含有ワクチン 1 回目接種 (MCV1) の接種率は 83%であり、COVID-19 パンデミック前の水準より低い状態が続いている。また、2 回目接種 (MCV2) の接種率は 74%であり²⁹⁾、2000 年以降では最高水準となったが、麻疹に対する集団免疫の獲得に必要な 2 回の麻疹含有ワクチン接種率が 95%以上に達しておらず、感受性者 (麻疹に対する免疫が不十分な者) の増加により更なる麻疹症例の増加が懸念されている³⁰⁾。

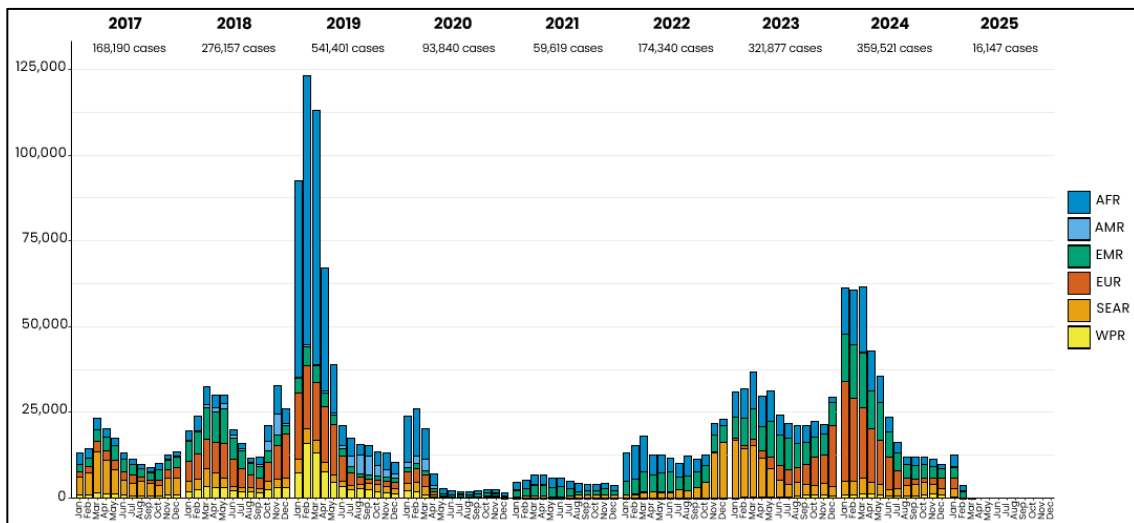


図 4. 世界の麻疹症例報告数 (2017 年～2025 年)

WHO. Measles and Rubella Global Update March 2025

(<https://immunizationdata.who.int/global?topic=Provisional-measles-and-rubella-data&location>)より引用

■ リスクアセスメント

(1) 現状と課題

- 2025 年の国内の麻しんは、3 月 19 日時点で、海外からの輸入症例及び国内における 2 次感染例を含む 32 例の届出があり、2024 年の年間届出数に迫る数となっている。
- 2023 年以降、世界的にも麻しん症例の報告数が増加しており、麻しん含有ワクチン接種率の低下に伴う感受性者数の増加により更なる麻しん症例の増加が懸念されている。2024 年は COVID-19 流行前を上回る訪日外客数であり、今後、2025 年 4 月 13 日から開催される 2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）を契機とする更なる訪日外客数の増加や、海外渡航者の増加が見込まれ、国内における海外からの麻しんウイルスの持ち込みリスクが高まっている。2025 年の国内における麻しんの届出状況では、特にベトナムなど麻しんが流行している海外地域からの輸入症例が相次いでおり、今後も新たな輸入症例の発生が懸念される。
- 2025 年の国内の麻しん届出症例のうち、麻しん含有ワクチンの定期接種対象年齢に満たない 0 歳は 13%であった。また、20 歳代は約 4 割を占め、当該世代は、定期予防接種制度に基づき、2 回の麻しん含有ワクチンの定期接種の機会があったが³¹⁾、これら 20 歳代の症例の約 3 割が未接種、もしくは 1 回接種であった。
- 2023 年の国内の麻疹抗体保有割合は、ほとんどの年齢/年齢群ではおおむね 95%以上を維持している。しかし、2023 年度の全国の麻しん含有ワクチン接種率は COVID-19 パンデミック前の水準より低下しており、国内での麻しんウイルスに対する感受性者が増加する可能性を示している。また、診断までに時間を要している症例も複数確認されていることから、輸入例の発生に伴う、国内の感受性者における麻しんの感染拡大と重症者の発生が懸念される。

(2) 対策

- 海外では、麻しんの発生が常在的にみられたり、最近麻しん症例報告数が急激に増加している国や地域がある。そのため、特に報告数が増加している国や地域へ渡航する際は、渡航者本人の感染予防及び帰国後の国内での感染拡大防止のために、2 回の麻しん含有ワクチン接種歴や麻しんの罹患歴の有無を母子保健手帳などで確認し、過去に 2 回のワクチン接種を実施した記録がない場合は、渡航前に麻しん含有ワクチンの接種を検討することが推奨される。特に国内においてベトナムからの輸入症例が相次いでいることから、該当地域への渡航予定者には十分な注意が求められる。
- 医療従事者など麻しん患者と接する可能性が高い方は、2 回の麻しん含有ワクチン接種歴を平時から確認しておくことが重要である。
- 国内において、海外からの渡航者と接する機会が多い空港職員等についても、自らの 2 回の麻しん含有ワクチン接種歴を確認しておくことが推奨される。
- 海外輸入例を発端とした国内での重症者を含む麻しんの広範囲な感染拡大を防ぐには、2 回の麻しん含有ワクチン接種率を 95%以上に維持し、麻しんに対する抗体保有割合を十分に高い水準に保つことが必要である。なお、昨今の麻しん含有ワクチンの供給状況

を踏まえ、令和 6 年度の接種対象期間内に接種を受けられなかった者に対して、令和 7 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日までの 2 年間、接種対象期間を超えて接種を行うことが可能となり³²⁾、ワクチンの偏在等でやむを得ず定期接種が受けられなかった者がいる地域においても、定期接種が受けやすくなっている状況である。

- 30 歳代後半から 40 歳代を中心とした世代は定期接種としての接種機会が 1 回のみであり³¹⁾、2 回の定期接種対象者であっても接種未完了者が一定数存在する。そのため、母子健康手帳等の記録に基づく 2 回の麻しん含有ワクチン接種歴が明らかでない場合、特に海外渡航を計画している場合は、渡航外来において麻しん含有ワクチンの接種を検討することが重要である。
- 国内で麻しんが発生した際に感染拡大を効果的に抑制するため、医療機関においては、麻しんに合致する症状を呈する患者が受診した場合の海外渡航歴の確認や、麻しんが疑われる場合には臨床診断をした時点で臨床診断例として届出を行うとともに、適切な検査(血清 IgM 抗体検査等血清学的検査および地方衛生研究所でのウイルス遺伝子検査等の提出)を行うことが重要である。また、公衆衛生機関においては、迅速な接触者調査を行うとともに、行政や医療機関、医師会等関係者間で迅速な情報共有を行いながら対応することが重要である。公衆衛生機関においては、定期接種対象者に対して確実に予防接種が行われるよう、未接種者への勧奨等が必要である。
- 複数の自治体に関係する広域事例となる事例も報告されている。「麻しんの国内外での報告増加に伴う注意喚起について(協力依頼)」(令和 7 年 3 月 19 日付け厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課・予防接種課事務連絡)に基づき、自治体は、麻しんの臨床診断例などの疑い例及び検査診断例の発生届を医療機関から受理した時には、厚生労働省と国立感染症研究所の双方に報告することが求められている。国も含めた関係自治体間での迅速な情報共有や対応が重要である³³⁾。

【文献】

- 1) 麻しんとは (2025 年 4 月 1 日参照)
<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ma/measles/010/measles.html>
- 2) WHO. Measles and rubella strategic framework:2021-2030 (2025 年 4 月 1 日参照)
<https://www.who.int/publications/i/item/measles-and-rubella-strategic-framework-2021-2030>
- 3) 麻しんに関する特定感染症予防指針(平成 31 年 4 月 19 日一部改正・適用)
<https://www.mhlw.go.jp/content/000503060.pdf>
- 4) 外国人観光客を発端とした麻しんアウトブレイクの行政対応—沖縄県、IASR 40:53-54, 2019 (2025 年 4 月 1 日参照)
<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/8734-470r02.html>
- 5) 2018 年 4~6 月にかけて発生した麻疹アウトブレイク事例について—福岡県、IASR

- 40:57-58,2018 (2025 年 4 月 1 日参照)
<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/8737-470r05.html>
- 6) ワクチン接種率が低い集団に端を発した麻疹集団発生事例の報告、IASR 40:60-61,2019
(2025 年 4 月 1 日参照)
<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/8740-470r07.html>
- 7) 内閣官房. 今後の水際措置について (令和 5 年 4 月 28 日)
<https://www.anzen.mofa.go.jp/covid19/pdf2/20230428.pdf>
- 8) 麻疹速報グラフ 2024 年第 11 週: 感染症発生動向調査 (IDWR)
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/graph/diseases/measles/030/index.html>
- 9) 福島県における麻疹アウトブレイクについて、IASR 40:55-57,2019 (2025 年 4 月 1 日参照)
<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/8736-470r04.html>
- 10) 麻疹ウイルス遺伝子型 D8 型が検出されたインドネシア渡航歴のある麻疹事例—川崎市、IASR 44:137-138,2019 (2025 年 4 月 1 日参照)
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/44/523/article/050/index.html>
- 11) 麻疹速報グラフ 2024 年第 52 週: 感染症発生動向調査 (IDWR)
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/graph/diseases/measles/030/index.html>
- 12) 日本政府観光局. 年別訪日外客数および出国日本人数の推移 (2025 年 4 月 1 日参照)
<https://statistics.jnto.go.jp/graph/#graph--inbound--travelers--comparison>
- 13) 2025 年日本国際博覧会 (大阪・関西万博) に向けての感染症リスク評価
<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/massgathering/020/12450-expo2025ra.html>
- 14) WHO. Measles and Rubella Global Update March 2025 (2025 年 4 月 1 日参照)
<https://immunizationdata.who.int/global?topic=Provisional-measles-and-rubella-data&location>
- 15) 麻疹速報グラフ 2025 年第 11 週: 感染症発生動向調査 (IDWR)
<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/060/measlesdoko.html>
- 16) 千葉県柏市、麻疹 (はしか) 患者の発生について (2025 年 3 月 17 日)
<https://www.city.kashiwa.lg.jp/documents/42123/press-hashika.pdf>
- 17) 東京都、麻疹 (はしか) 患者の発生について (2025 年 3 月 17 日)
<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2024/03/kansen202503171700>
- 18) 山口県、麻疹 (はしか) の発生について (2025 年 3 月 4 日)
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/press/293219.html>
- 19) 千葉県、麻疹 (はしか) 患者の発生について (2025 年 3 月 8 日)
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2024/documents/0308measles.pdf>
- 20) 福岡市、麻疹患者の発生について (2025 年 3 月 24 日)
<https://www.city.fukuoka.lg.jp/hofuku/hokensho/kansensho/kansenshojoho/hodohapp>

you/documents/070325measles.pdf

- 21) 川崎市、麻疹（はしか）患者が発生しました (2025 年 3 月 13 日)
<https://www.city.kawaguchi.lg.jp/material/files/group/86/mashin20250313.pdf>
- 22) 都道府県別病原体別麻疹由来ウイルス、2025 年 (2025 年 4 月 1 日参照)
<https://kansen-levelmap.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data112j.pdf>
- 23) 令和 5 年度麻疹風しん定期予防接種の実施状況の調査結果について
<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ma/measles/100/index.html>
- 24) 一般社団法人 日本環境感染学会医療関係者のためのワクチンガイドライン第 4 版
http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/vaccine-guideline_04-2.pdf
- 25) 麻疹の抗体保有状況－2023 年度感染症流行予測調査(暫定結果)(IASR 45:152-153,2024)
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/45/535/article/050/index.html>
- 26) WHO.Country slide(measles)(PowerPoint) (2025 年 4 月 1 日参照)
<https://immunizationdata.who.int/global?topic=Provisional-measles-and-rubella-data&location>
- 27) Bộ Y tế. Kế hoạch triển khai chiến dịch tiêm chủng vắc xin phòng, chống dịch sởi năm 2025 (2025 年 4 月 1 日参照)
https://moh.gov.vn/vi_VN/thong-tin-chi-dao-dieu-hanh/-/asset_publisher/DOHhlnDN87WZ/content/ke-hoach-trien-khai-chien-dich-tiem-chung-vac-xin-phong-chong-dich-soi-nam-2025?inheritRedirect=false&redirect=https%3A%2F%2Fmoh.gov.vn%3A443%2Fvi_VN%2Fthong-tin-chi-dao-dieu-hanh%3Fp_p_id%3D101_INSTANCE_DOHhlnDN87WZ%26p_p_lifecycle%3D0%26p_p_state%3Dnormal%26p_p_mode%3Dview%26p_p_col_id%3Drow-3-column-3%26p_p_col_count%3D2
- 28) WHO. Disease Outbreak News. Measles – United States of America
<https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2025-DON561>
- 29) WHO. Immunization dashboard (2025 年 4 月 1 日参照)
<https://immunizationdata.who.int/>
- 30) WHO. Measles cases surge worldwide, infecting 10.3 million people in 2023
<https://www.who.int/news/item/14-11-2024-measles-cases-surge-worldwide--infecting-10.3-million-people-in-2023>
- 31) 日本ワクチン産業協会、予防接種に関する Q&A 集 2024
<http://www.wakutin.or.jp/medical/>
- 32) 「麻疹及び風しんの定期の予防接種に係る対応について」(令和 7 年 3 月 11 日付け厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部予防接種課事務連絡)
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001440529.pdf>
- 33) 「麻疹の国内外での報告増加に伴う注意喚起について (協力依頼)」(令和 7 年 3 月

19 日付け厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課・予防接種課事務連絡)

<https://www.mhlw.go.jp/content/001454437.pdf>